

NO.444

R6年8月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

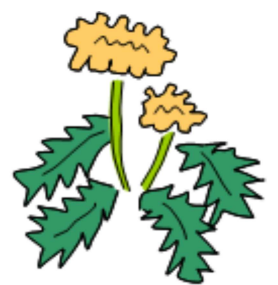
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「尊いのち」

施設長 木下昭一

世間では2024年パリオリンピックが開幕し、開会式ではこれまでがない、いわゆる競技場を用いない斬新なアイディアが取り入れられ、話題を呼んでいます。3年前のコロナ禍で無観客だった2020年東京オリンピック（実際には21年開催）に比べると、注目度も盛り上がり度も格段に違っているように感じます。早速始まった競技では日本の選手ばかりでなく、各国の選手団の活躍が連日報道されており、応援する姿に活気があふれ、選手の皆さんが身近に声援を感じられることで、より力を発揮出来ていることが一番の違いではないでしょうか！

そんな中、一方で私たち福祉に携わる者として忘れてはならない痛ましい事件が起きたのも

この時期でした。私達の熊本では4月に起きた熊本地震からの復興半ばの最中で起きた衝撃的な事件ただけに、大きなショックと犯人に対する激しい怒り、悲しさ、虚しさ等々が入り混じった複雑な状態で、自身の感情に整理がつかない状況であったことと共にその事件が鮮明に記憶に残っています。その事件とは、神奈川県相模原市の県立の知的障がい者支援施設「津久井やまゆり園」で起きた、元施設職員植松聖死刑囚が利用者さんや職員に対して凶行に及んだ殺傷事件で、19人が殺害され、職員を含む26人が怪我を負うという過去に類を見ない残酷な事件でした。犯行に及んだ植松聖死刑囚は、のちに語った犯行動機として、「障害者を養い続けることは莫大なお金と時間を要する社会の負担であり、また、意思

疎通の取れない重度障害者は人ではない“心失者”であって、生産性のない者は生きる価値がない」という持論を展開し、事件直前に衆院議長宛に送られた文書には、「我々には偏見としか思えない」そうした彼独自の持論に基づく一方的な（間違った）正義感のもと、「日本国と世界の為」にこの大量殺害を行うと事前予告をしたのちの犯行でした。それが2016年7月26日のことで、それから8年が経過し、今年も追悼式が行われました。その式典の中で、事件によって娘さんを亡くされたご家族の方が以下のようにコメントされている記事を目にし、あの時の事件直後に感じた感情が鮮明に蘇ってくるのと同時に、多くのご家族の心情を思いはかると悲痛な思いに苛まれました。「1分でも1秒でもいいから会

いたい。お化けでも、幽霊でもいい」犠牲となった美帆さん（当時19歳）の母親は、変わらぬ悲しみを抱えながら、「彼女の命を無駄にしたくない」と言葉を継がれています。（お母様は、植松被告の裁判の中で、当初は娘さんの名前を匿名で審理することにされていました。美帆さんというかけがえのない一人の人間が生きた証しを残したかった、と実名報道に切り替えて臨まれました。）

昨年にはこの事件が「月」と題して映画化され、一部の映画館で上映されました。ご覧になられた方もあると思いますが、受け止め方、捉え方は「観られた方」によって様々だと思えます。今後この映画が一つの契機となって「何らかの提起」となり続けていくことを願っています。そして、盛り上がっているオリンピックやメジャーリーグの話題に埋もれていくことなく、この事件を風化させることなく伝え、考え続けていくことが、私たち福祉人に課せられた使命だと思っています。



『心で見える』

先日、子どもに『星の王子さま』を読んでいた時、1つの言葉が目にとまりました。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」。利用者さんの中には自分の想いを上手く伝えることができる方もいらっしゃいますが、そうでない方が多くいらっしゃいます。利用者さんによっては上手く伝わらないことで、走り出しや不適応行動を誘発させてしまうこともあります。伝え辛さを抱えている方に対して、どうやったら不安を取り除けるか、それこそ“心で見える”ことだと感じています。上手く言葉で表現出来ない方の思いを汲み取り、伝えたい事を引き出すことで利用者さんの安心に繋がると思っています。利用者さんの想いに気付けるようになるためにも、日々の支援の中で、利用者さん一人一人を心で見たいと思います。

支援員 清田 健士郎

『温かい気遣い』

一昨年の11月から産休、育休を頂いていました。昨年の11月から復帰し、早くも7ヶ月が経ちました。産休前は1班所属でしたが、復帰後2班所属になりました。2班では、ネット作業やハンカチ作業をしています。私自身はハンカチ作業をすることが多く、利用者のAさんが優しく教えてくださいました。Aさんはとても丁寧に治具を使い綺麗に仕上げる事が出来ます。新しいハンカチもすぐに見て覚え、今では新しい種類のハンカチも綺麗に仕上げる事が出来ています。そして、Aさんは、スタッフの勤務等良く見ており、私が子どもの体調不良などで休んでいると「子どもさん大丈夫？」と声を掛けて下さいます。私自身にも「元気？」と声を掛けて下さり、その一言で「頑張ろう」と思い、元気が出ます。

復帰し、新しい班で色々と覚えることも多いですが、育児と仕事両立して頑張っていこうと思います。

生活支援員 山本 晴香

『信じること』

三気の里に入社し、早くも5年を迎えようとしています。この原稿を書く上で、昔の自分が書いた原稿を見ていました。そしたら「私はこんな事に躓いて、悩んでいたんだ」と、振り返ることができました。入社1年目、私は利用者さんの特性の理解ができておらず、色々な方に迷惑をかけたことを思い出します。そんな私も入社して5年を迎えようとしており、多少は利用者さんと関わることができました。その中で培った経験や、利用者さんの特性を理解し、新人職員に教える事も多くなってきました。Aさんの担当になり、3年が経ちました。1年目は、特性の理解が及ばず、不愉快な思いをさせたと思います。ですが、いまではAさんから笑顔で接して下さるようになりました。私はAさんが充実した生活を送れるように努め、Aさんならできると信じてきました。「信じること」は、私とAさんに大きな力を与えてくれたのだと思います。

生活支援員 早瀬 寛

『両輪』

4班は高齢の方が中心の班で、近年はトイレの間隔が極端に短くなったり衣類を汚されるなど排泄の問題や、衣類整理を几帳面にされていたのに多少の乱れも気にしなくなったりと、加齢が原因と思われる状態の変化が少なからず見られるようになってきています。例えば排泄であれば、その課題は移動(トイレまでの距離等)にあるのか、腹圧や膀胱周りの筋力(我慢できない)なのか、認知(尿意等を感じない)の問題なのか。衣類整理であれば、乱れていることに気付いていない、気付いていても上手く片付けられなくなっているという可能性もあります。他にも原因は多々考えられ、それによって支援の方向性が変わってきます。

私たちにできることは普段の様子や行動をしっかり観察して、変化に気づき、Drにその変化をきちんと報告すること。そしてその状態に合わせて常に支援のアップデートをしていくことだと思います。日頃からの「介護予防との両輪」でこれからも支援していきます。

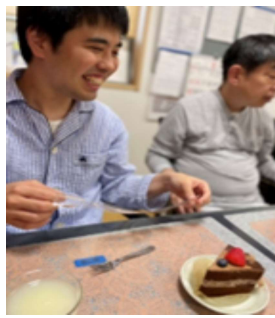
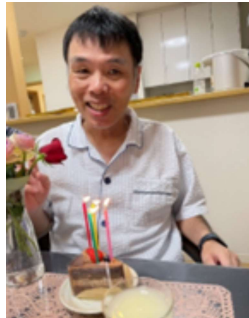
生活支援員 高橋 一精

『脱・弁当の日 パートⅡ 新の巻』

私がグループホーム新の世話人になり早10ヶ月が経ちました。グループホームでは夜や昼に外食をするイベントがあっていましたが、コロナの影響で3年ほどできていなかったと聞きました。コロナも落ち着き、私が入った10ヶ月の間に2度外出を行いました。1度目は菊陽のお好み焼き屋さん、2度目は西原村のえびかつ・とんかつ屋さんをみんなで話し合ってお店を選びました。各々好きなメニューを選びます。メニューを見ながらじっくり考えられる方、見て即決の方、選び方は様々ですが食べている時の表情は皆一緒、笑顔であられた和やかな雰囲気です。

「新」ではもう1つ新しいイベントを始めました、利用者の方で誕生日の人がいる月には、ティータイムでケーキイベントをしています。事前に食べたいケーキを1人1つずつ選び、みんなでハッピーバースデーを歌いお祝いします。1年間大きな病気やけがもなく元気に過ごせたことをみんなで祝いし、美味しくケーキを食べる時間はとても楽しくハッピーな時間です。これからも皆さんがやりたい事ができ、行きたい所にいけるようにお手伝いしていきたいと思っています。

世話人 中村 奈実



『信頼していただける支援』

私たちの仕事でいう「支援」とは、利用者さんの日々の生活をサポートしていく中で、出来るようなことをみつけ、その能力を引き出し、伸ばせるように支え、後押しすることだと思っています。その為には、目標を明確にし、実行・実現できるものを設定する。その上で、利用者さんの過度な負担にならないように目標を整理し数を少なくする。そのような支援の目標をもって関わることで、利用者さんに、もう少し頑張ると「励まし」、目的の行動ができた時は、評価(褒め)することができます。このような、励ましや評価が利用者さんとの信頼関係を構築する上でとても重要なことだと捉えています。逆に、支援の目標が明確でなければ、利用者さんの頑張りや何かできた時に、その評価をする機会を逸し、利用者さんから信頼される機会をも失ってしまうことにもなりかねません。利用者さんが信頼し、安心できる支援者がいる環境の中で、日々の生活が送れるように、信頼していただける「支援」を提供していきたいと思っています。

支援課長 岩田 幸児

療育雑記

『音の刺激』

主任 小城 崇

『皆さんは普段、どんなことにストレスを感じますか。』日常生活の場面では、何気ない言葉や態度、周囲の目線、仕事をしているのであればその重圧等、色々なストレスがあります。改めて問われると考えてしまいます。

軍事ジャーナリストの黒井文太郎氏は、あるテレビ番組に出演された際に、『人間が一番ストレスを感じるの“音”なんです』と話されていました。実際にある紛争地帯の取材中、公園に人だかりができていたそうです。何があったのかと見に行くと、恰幅の良い地元の男性が心臓麻痺を起こされ、黒井氏が心臓マッサージを行うも、そのまま亡くなるという現場を体験されています。周囲の人に何があったのかを訊くと、原因は市街地爆撃による“音”であったとのこと。同じくフリー

ジャーナリストの大津司郎氏は、ジャングル地帯での取材中に、銃撃戦の“音”によるストレスから、奇抜な恰好(金髪のカツラを被って虹色のサングラスをかけた姿になった兵士を見てショックを受けたと語られています。

特殊な状況だから…と思われるのですが、実際に私達の生活の中で感じられる場面があると思います。例えば、遊園地のお化け屋敷は一例ではないでしょうか。真っ暗な中で背後から『ワッ!』と声を出されれば、雰囲気も相まって、ビックリして冷や汗が出たりすると思います。お化け屋敷が好きな方は良いかもしれませんが、苦手な方にはストレスを感じると思います。

支援の現場でも同じだと思っています。視覚的な刺激や接触の刺激等の様々な刺激がありますが、“音”による刺激が最も防ぎようがなく、ストレスを感じる刺激なのではないかと思えます。

利用者のAさんは、甲高い音(特に女性の泣き声や叫び声)が苦手な方です。女性利用者さんの

泣き声に対して距離を取ったり、しゃがみ込む等の行動があります。その場では『回避』の行動をされますが、そのストレスが溜まると破壊行為や自傷行為が見られます。気になる方が同じ空間にいる場合には、予め距離的配慮を行い、その方が見える位置に座ってもらう等の配慮を行っています。気になる方が見える位置にいることで、Aさん本人には前述のお化け屋敷であるような“予想外の音”のストレスを回避できるようにしてもらう為です。

出されることなく過ごして頂ける間柄を作っていくべきなのではないかと考えました。また、同時にAさんの溜まったストレスをどのように軽減していくか、ということも考えました。一つの方法ではありますが、Aさんの好きな個別外出を外食だけではなく、買い物等を加えることで、今まで以上にAさんが楽しめるものになりました。苦手なことに意識を向けるのではなく、楽しみに意識を向けてもらうことが目的です。

以前はイヤーマフの使用を検討しましたが、“音”を防ぐことができず、耳栓の使用を試してみましたが、実際に使用してみると、“音”は緩和されますが、完全に遮断することはできません。日常生活の場面での“音”は、周囲の状況が静かであれば、尚更強調されて聞こえる為、逆に“音”に対してより一層過敏にしてしまうという結果になりました。様々な方法をとる中で、Aさん本人への支援の振り返りを行い、不快な“音”の刺激があった際にも、不応行動を表

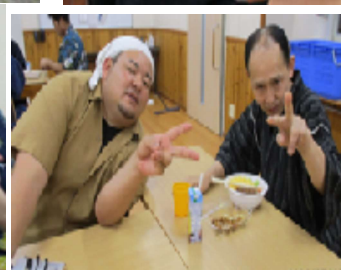
また、他のスタッフにもAさんのストレスをどのように伝えたら分かってもらえるだろうかということも考えました。本人でなければ実際に分からないことではあります。分かつとる気持ちが必要ですが、分かつとる繋がらないです。利用者さんに寄り添うということは、分かつとることなのではないでしょうか。課題はありますが、一つずつクリアできるような、努めていかなければならないと感じています。



夏祭り

生活支援員 中村 圭助

7月19日に毎年恒例の夏祭りを開催しました。今年度は、昼に通り雨が降ったおかげで暑さが軽減され、涼しい中で行うことが出来ました。利用者さん、スタッフとともに浴衣や甚平、アロハシャツを着て参加しました。盆踊りも大津小唄の曲に合わせて中庭ですることができ、提灯の下で輪になって踊ることが出来ました。また、前年と同じく花火も行い、みんな上手に持ち花火をさしていました。食事は口コモコ丼、唐揚げ、たこ焼きと利用者さんが選んだメニューを美味しく食べられていました。ゲームコーナーでは魚釣り、輪投げ、玉入れと3種類あり、みんな楽しまれました。来年度も暑さなどに注意しながら楽しい夏祭りが出来るようにしていきたいと思いをしました。



夏祭り



8月スケジュール

02(金) アンパ創作活動
 15(木) 嘱託医来診
 17(土) 陣内食堂
 18(日) ワックスがけ(作業棟)(タンポポの家)
 20(火) 2班レクレーション
 23(金) ゴールドクラブ
 29(木) 強度行動障害支援者研修(実践)
 ~30日

30(金) 1班レクレーション
 アンパレクレーション
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30



betree314

サンキーイツ

「新企画」
 サンキーイツ配達員

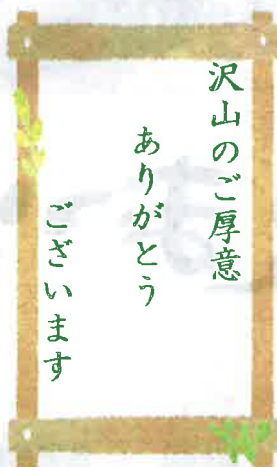
森田 康之

今年も大変な暑さが続いています。日差しの強さは暑さを超えて、痛みを感じてしまっています。

利用者の皆さんは暑さに負けず日々、作業を頑張られています。そんな皆さんにふーっと一息ついてもらうことを目的に「サンキーイツ」を企画しました。

リスト(クレープ、プリン、飲み物)から選択して頂き、スタッフが配達員として皆さんにお届けしました。届いた物を笑顔で受け取られた方もいました。

今回は限られた品物の中から選んで頂くことになりましたが、本家に追い付けるようにクオリティをあげていきたいと思えます。



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付物品】

米田孝一様	米村秋江様
魚谷秀文様	田中満子様
櫻木勇夫様	清田栄一様
渡邊正司様	松村俊介様
中村秀隆様	前田眞澄様
小牧博則様	赤星央子様
福永敬子様	田中哲夫様
中嶋久枝様	上野育夫様
森川琇介様	坂口正浩様
東坂富士代様	金森保様
井手上昌子様	玉永昇様
つくしの里様	宇都宮建設様

イスミ車体様 タイハツ大津様
 西日本防災システム様
 山本住建様 キンキ様
 リニエルサプライ様
 よつば調剤薬局様

【寄付】

三気の里家族会様
 春野宗敏様 田中満子様
 ライスセンター井口様
 興呂木克昭様

【後援会】

中村秀隆様 金森保様
 よつば調剤薬局様
 山下ちづる様
 田中健二郎様

編集後記

8月に入り、毎日暑い日が続いています。この時期の敵は「紫外線」ですよ。シリシリとどうしてこんなに強く照りつけてくるのだろうと思ってしまう。紫外線対策が欠かせないですが、対策し過ぎて不審者みたいになるのだけは避けなければと思う今日この頃です。

中村 奈実

